

人をコンテンツにする 地域づくり

文部科学省共同利用・共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」
愛知大学三遠南信地域連携研究センター 編

[目次]

はしがき	3
第一部【基調講演】	5
「人をコンテンツにする創造的な地域づくり ～徳島県神山町の地域づくりの取り組み～」 大南信也氏（NPO法人グリーンバレー理事長）	
第二部【パネルディスカッション】	51
「外部人材の活用と創造的地域づくりの可能性」 パネリスト 松島貞治氏（長野県泰阜村村長） 原和男氏（和歌山県那智勝浦町色川地域振興推進委員会会長） 石國佳壽子氏（鳥根県邑南町 地域おこし協力隊・アグリ女子） コメンテーター 黍嶋久好氏（三遠南信地域連携研究センター研究員） コーディネーター 岩崎正弥氏（地域政策学部教授・三遠南信地域連携研究センター人材育成部門責任者）	

はじめ

本書は、二〇一五年一月三十一日に愛知大学三遠南信地域連携研究センターが主催したシンポジウム「人をコソテンツにする地域づくり」の記録である。現在、我が国では持続可能な地域づくりを目指した地方創生に、各地域が取り組んでいる。その地域づくりを担うのが「人」である。人を材料と考える「人材」から地域最大の財産であることを示す「人材」へと、多くの取り組みも移行しようとしている。しかし、そこに明快な戦略を持ち得ないもどかしさを、私自身も感じてきた。このシンポジウムでは、地域づくりへの人材の役割について、徳島県神山町の大南信也氏（NPO法人グリーンバレー理事長）の豊富な実践にもとづいた基調講演、地域づくりのスペシャリストである松島貞治氏（長野県泰阜村村長）、原和男氏（和歌山県那智勝浦町色川地域振興推進委員会会長）、石國加壽子氏（島根県邑南町地域おこし協力隊・アグリ女子）によるパネルディスカッション「外部人材の活用と創造的地域づくりの可能性」が行われた。まさに時宜を得た内容であり、地域づくりに携わる多くの方々の参考になると思う。

さて、主催者である愛知大学三遠南信地域連携研究センター（以下、本センター）について、若干ご説明をしたい。一九四六年に設立された愛知大学は、設立趣意書に「大都市へノ偏重集積ヲ排シ、地方分散コソ望マシ」と謳っており、本センターはこの建学の精神にもとづいて、二〇〇四年に大学発祥の地である豊橋校舎に設立された。目的は、大学が主体的に地域社会貢献を果たし「新しい公共」の一角を担うことである。本センターの名称である三遠南信地域は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域からなり、県境を跨いだ越境地域である。本センターは、三遠南信地域を主たる対象地域としながら、国際的な比較研究、地域

連携型GIS（地理情報システム）などの学術的な研究と実際の地域づくりの連動を目指してきた。

二〇一三年四月からは、文部科学省共同利用・共同研究拠点事業の「越境地域政策研究拠点」に採択され、三遠南信地域と同様に国内、国外の越境地域での政策研究を実施している。我が国を例にとると、地域政策は国・県・市町村という三層制で形成されており、行政境界を跨いだ越境地域が主体的に地域政策を構築することは、政策の階層構造に反することになる。従って、そこには自律的な政策機関は存在し難く、地域政策自体の形成も困難である。一方、越境地域政策を構築することは、従来の地域政策との間に摩擦を生じながらも、必然的に地域自律を促進することとなる。従前の階層構造を前提とするならば、新たな地域政策実験とみなすことができるであろう。本センターの特質は、主として我が国の県境地域を対象に地域政策実験としての実証性ある研究を実施することにある。

本センターの体制は、研究部門と人材育成部門を両輪としている。研究部門は、地域政策を総合化する「地域計画コア」、行政境界で分断される政策情報を連動する「情報プラットフォームコア」、情報プラットフォームを活用して地域計画の視点を計量化する「地域モデルコア」の三つの研究分野である。こうした研究を具体的な地域づくりに展開するのが、人材育成部門である。パネルディスカッションでコーディネーターを努めた岩崎正弥教授が部門責任者であり、シンポジウムの題名である「人をコンテンツにする地域づくり」を基本的な理念として実践的研究を進めている。

最後に、本シンポジウムにご協力を頂いた皆様に篤く御礼を申し上げます。

愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行

文部科学省 共同利用・共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」
「人をコンテンツにする地域づくり」シンポジウム

「人をコンテンツにする創造的な地域づくり」 ～徳島県神山町の地域づくりの取り組み～

大南信也氏（NPO法人グリーンバレー理事長）

日時：二〇一五年一月三十一日 三：〇〇～一六：〇〇
場所：愛知大学豊橋校舎記念会館小講堂

【注】

本シンポジウムは、配布資料をもとに当日のパワーポイント（PPT）スライドに従って進められた。本ブックレットには配布資料を掲載しており、PPTに従って行われた講演内容の一部のスライドが欠如している。ややわかりにくい面があるかもしれないが、当日のシンポジウムの雰囲気を再現するために、あえて配布資料には合わせない形で原稿としたことを予めお断りしておきたい。

第一部

基調講演

